

令和5年3月3日

三鷹市教育委員会様

学園名 鷹南学園
学園長名 内藤 和田 公印



令和5年度 学園の教育計画について

このことについて、下記のとおりとりまとめましたのでお届けします。

記

1 学園の教育目標

(1) 学園の教育目標

先人の築いた歴史に思いをはせて地域に根ざし、夢と希望をもち、ともに学び、未来を切り拓き、国際社会を担う主体的で創造力あふれる児童・生徒を育てる。

そのため、4つの教育目標を目指す子ども像として掲げ、学園の小・中学校で具現化を図る。

- 自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人
- 自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人（重点）
- 自分や相手を大切にし、優しさを広げる人
- 地域の一員としての自覚をもち、国際社会に目を向ける人

(2) 学園の教育目標を達成するための基本方針

学習指導要領にある、「よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る」の理念を基に、三鷹市の目標とする子ども像である人間力・社会力を兼ね備えた子どもを育成する。

- 一人ひとりを大切にする教育の実現
 - ・ 見方・考え方を働きかせ主体的・対話的で深い学びを実現し、社会の諸問題に対して解決していくことができる資質・能力を伸ばす
 - ・ 子どもを信じ、自らを伸ばす力を引き出す教育を推進する。
- スクール・コミュニティの創造と発展
 - ・ ウエルビーイングを踏まえて、「学校3部制」の「第2部」と「第3部」との連携・関連を図る。
 - ・ 教育活動の意図を保護者及び地域と共有し、連携・協働を進めて地域の拠点となる学園づくりを推進する。

ア 学力を伸ばす学園づくり

(ア) 児童・生徒が各教科・領域の見方・考え方を十分に働きかせられるよう、自己の学習を調整しよろとする力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を通して何ができるようになったかを明らかにし、学園生の資質能力を高める。

(イ) 誰一人取り残さない一人ひとりを大切にする教育の実現に向け、ユニバーサルデザインの考え方

を重視し、鷹南版小・中一貫カリキュラム・乗り入れを活用して分かりやすい授業づくりを推進する。「三鷹市学力テスト」等各種調査結果・分析等を踏まえ、学習用タブレット端末を活用し、個別最適な学びの実現を目指す。

(ウ) 令和3・4年度の三鷹市教育委員会研究協力校としての研究成果や、第五中学校の東京都授業改善推進拠点校としての研究成果を学園のものとして活用し、学園生全体の学力向上を目指す。

イ 教育活動全体を通して行う人権教育

(ア) 全教育活動を通して人権教育を徹底し、教師・児童・生徒が一体となって適切に周囲の人と関わり、いじめの未然防止及びいじめを見逃さない環境を整えていく。

(イ) 「特別の教科 道徳」の授業を充実させ全教育活動を通して意図的・計画的に道徳教育を行う。

ウ 体力の向上

(ア) 東京都児童・生徒の体力調査の結果を踏まえ、学園の担当者等で学園・学校の課題を明確にして重点化を図り、実践・評価・改善を行う。

(イ) オリンピック・パラリンピック教育の取組みを活かした交流活動や体験活動を行い、スポーツへの関心や豊かな心を育てる。

エ 教育支援の充実

(ア) 個別支援計画に基づき、小学校と中学校で児童・生徒の情報を共有したりするなど「三鷹市教育支援プラン2022（第2次改定）」に基づいた学園共通の取り組みを実施する。

(イ) 通常の学級、支援学級等すべてを含めた学園としての教育支援の組織、指導の在り方について研修を通して共通理解する。学園全体として、「校内通級教室」の有効活用を図る。

(ウ) 学園の通級拠点校を活用する。通級教室の担当教員の専門性を広く学園全体の教育支援体制の充実に活かし、個別最適な学びの保障に役立てていく。

(エ) 生活指導と教育支援の連携強化のため教育相談、各種調査を基に、いじめ・不登校対策を学園として取り組み、小・中の情報交換を密にし、不登校や暴力等の二次障害を未然に防ぐ。

オ 地域とともに豊かな心を育てる

より豊かな人間力と幅広い社会力を育むために、スクール・コミュニティの形成を図りながら学校支援ボランティアを拡充し教育活動を充実させる。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育としての重点

ア コミュニティ・スクール委員会の確かな合意形成のもとに運営する。そのために熟議を取り入れて課題解決を行う。学校支援ボランティアの活用を推進し、コムニティ・スクール委員会等の協力を得ながら、地域人財の発掘・活用を積極的に推進し、多世代による交流を可能にする。

イ スクール・コミュニティ形成の核を担う。そのために、保護者・地域が学校経営に参画する学園づくりを行う。

(ア) コムニティ・スクール委員会とともに、「鷹南っ子ジャンプアッププラン」等の見直しや具現化を更に図り、学園・学校支援を推進する。

(イ) コムニティ・スクール委員会を核としてスケジュール調整や会場提供などを行い、鷹南学園が本地域(中原・新川地区の一部)のスクール・コミュニティの拠点となる。

(ウ) 学園・学校評価に保護者・地域を対象としたアンケートを活用し、教育活動の改善を行う。

2 指導の重点

(1) 各教科

- ア 鷹南版小・中一貫カリキュラムに基づき、児童・生徒が各教科・領域の見方・考え方を十分に働かせられるよう、自己の学習を調整しようとする力を高め、主体的・対話的で深い学びを目指した指導の改善を行う。
- イ 個別最適な学びを保障するため、学習の個性化と指導の個別化を適宜行う。その際学習用タブレット端末を有効活用する。
- ウ 小学校から中学校の数学、中学校から小学校の社会・保健体育・教育支援を中心に各教科で相互乗り入れ授業を実施するとともに、他教科でも乗り入れを前提に、系統性のある指導を充実させる。小学校における教科担任制を実施する。
- エ 改訂版「鷹南スタンダード」に基づき、家庭・小学校・中学校が望ましい学習習慣等の定着を図る。
- オ 小学校低学年から英語に親しむ機会を設定する。小学校英語については、小・中一貫した外国語活動の充実を図りながら中学校の指導につなげていく。

(2) 道徳

- ア 教科用図書を主たる教材とし、小・中学校の発展的・系統的に全教育活動を通じて指導を行う。
- イ 地域の人財等を活用し、地域の教育力を活かした道徳の時間の指導を行う。
- ウ いじめ防止対策年間指導計画に沿って相手を思いやる気持ちを高める指導を行う。

(3) 総合的な学習の時間

- ア コミュニティ・スクール委員会の協力を得ながら、地域等の人財活用を推進し、家庭や地域社会と関わりながら人間力・社会力の育成を目指した指導を行う。
- イ 学園として、キャリア・アントレプレナーシップ教育や三鷹地域学習に取り組み、社会に関わろうとする態度を育成する。

(4) 特別活動

- ア 各教科・領域との関連を図りながら集団生活を充実させ、自主性・社会性を育成する。
- イ 児童会・生徒会交流会等の自主的・自治的な活動を重視し、児童・生徒の企画力・実践力を育てる。
- ウ 自己の変容や成長を自己評価できるようにするためにキャリア・パスポートを活用する。また、9年間のポートフォリオとしてファイリングし、小・中一貫した資料として活用する。

(5) 特色ある教育活動

- ア コミュニティ・スクール委員会の協力を得ながら、保護者・地域の人財を積極的に活用し、学力向上のための授業改善、個に応じた指導、体験を重視した活動を充実させる。
- イ スクール・コミュニティの創造に向けて小6と小1の関係を考慮した異学年交流や学園の様々な交流活動を通して、学園内の学校同士の関わりを深めて社会性を高めるとともに、地域の方との交流会等を通して地域に根差し、地域を愛する豊かな心の育成を図る。

(6) 生活指導

- ア 学園評価において重要度の高い「あいさつ」指導、「いじめ防止」指導、及び安全指導を徹底する。特にすべての教職員が「いじめ」の定義を正しく理解し、「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、組織的な対応を徹底する。教職員の体罰防止、適切な言葉遣いを徹底していく。コミュニティ・スクール委員会を核に適宜情報を発信し、地域・保護者とも連携して取り組む。
- イ 小・中一貫の生活指導の重点を「自律性を高める指導」とし、自己指導能力の育成を目指す。改訂版「鷹南スタンダード生活版」を共通理解して取り組む。
- ウ 自殺予防のため「SOSの出し方」や人権教育、道徳教育を充実することで自己肯定感を高め、自殺や不登校、いじめの未然防止に取り組む。

エ 長期欠席したり不登校の状況が見られたりする児童・生徒に対して、A-Room や登校支援シートを活用し、きめ細かく対応・指導していく。

オ デジタル・シティズンシップ教育の浸透を図り、より良いICT機器の使い手を育てていく。

カ 新型コロナウイルス感染症について、感染防止対策や人権侵害を防ぐための指導を適宜行っていく。

キ 児童・生徒の意見を表明する権利を確保するために意見を聞く機会を児童会・生徒会中心に設ける。

(7) 生き方・進路指導

ア 児童・生徒に自己有用感をもたせ、夢や希望をもって生き抜く力の育成を図る。

イ キャリア・アントレプレナーシップ教育等を通して、他者との人間関係を構築し、将来に向けたキャリア形成に求められる能力を高め、創造性と自主自立の精神、チャレンジ精神を育む。

(8) その他

ア 指導の重点化、行事等の統合化、同僚性の発揮、外部人財の活用、校務支援システムの活用などにより、教職員の勤務環境を整え、教育の質を向上させる。